

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

島根原発2号機再稼働やめよ お金の心配なく子育てしたい 国の省庁に市民の願い届ける



むらほえりこ
衆院予 定 候補

社会の歩みに 人生を重ねて⑧

街のあちこちが秋の色に染まり始めています。街路に植えられた木々が、それぞれの色、とりどりの形で誇らしそうに存在感を表す季節。行き来する多くの

風は秋色

衆院島根一
予 定 候 補 区 村穂 江利子
むらほえりこ

人が心を慰められていること
でしょう。

そんな街路樹を目にするたび、神宮外苑の銀杏並木が再開発のために、枯死の危機にあることを思わずにはいられません。地方に住む若いころの私には、あの銀杏並木は憧れの東京の代名詞でもあり、自分で稼げるようになってから真っ先に歩いてみたい通りでもありました。

坂本龍一氏が生前、この開発に物申す手紙を都知事に出

していたことは、すでに多くの人の知るところとなりました。その手紙の趣旨は、開発自体を「持続可能で、生物多様性を生かす観点から見直してほしい」というものでした。伐採される森は、樹齢百年もの樹木を抱える、神々しい空間であり、歴史そのもの。一年一年、年を重ねる「一年が寄る」というのは、まさにこの樹木に内包する年輪が一年一年重畳していき、強く大きな幹になっていくということ。人も同じく。私も五十年の年輪に相応しい歩みをしていきたいと、物思ふ秋を過ごしております。



厚生労働省に申入書を手渡す たちばな、舟木両市議、むらほえりこ候補ら

10月25日、舟木けんじ、たちばなふみ子、両松江市議は、日本共産党島根県議団と国会内の衆議院議員会館で政府交渉し8省庁に37項目を申し入れました。むらほえりこ予定候補、尾村利成、大國陽介の両県議、松江市議団のほか向田聡安来市議、上代和美雲南市議が参加、仁比聡平参院議員、大平よしのお衆院中国ブロック比例候補が同席しました。

共産党県議団・松江市議団が政府交渉

原発・子育て・教育・農業など願い届ける



交渉する舟木(左から2人目)たちばな(3人目)両松江市議ら

原発廃炉と再稼働の問題点
中国電力島根原発の問題では、経済産業省資源エネルギー庁などに対し、島根原発を含む全ての原発稼働に向けた活動を断念するよう要求。避難

計画の実効性の再検証や山口県上関町で中電が計画する使用済み核燃料の中間貯蔵施設建設など核燃料サイクルからの撤退を求めました。資源エネルギー庁の担当者が「安全性の確保を最優先に原発を活用していく」と答えたのに対し、尾村氏は「島根原発の稼働に県民合意はなく、命と安全を守る観点から稼働すべきではない」と反論しました。

発電所計画について、地域住民の合意を得ないまま設置が進むことがないよう法整備の必要性を環境省と経済産業省に申し入れ、大國県議などが安来や雲南での環境アセスメントの実態や市民の声を届けました。たちばな市議は、松江市内で紛争となっているメガソーラー建設計画はアセス逃れとも言える実態を示し、環境アセスメントの問題及び規制の必要性を訴えました。経産省の担当者は「住民の合意と理解が大事」と応じました。

大規模風力・メガソーラー
県内で相次いでいる大規模風力発電事業計画や、域外資本による大規模メガソーラー

その他、子育て支援の充実などを厚生労働省に、教育環境改善を文部科学省に、食料自給率の向上など農業の再生を農林水産省に、江の川治水問題を国交省などに要請しました。(子育て教育問題について、2面でお知らせします)

『資本論』CAFÉのご案内

日時：2023年11月19日(日)
午後2時～4時
場所：サンラポーむらくも 2F
会場費：1000円
(コーヒー、ケーキ 付き)

話題提供：三輪拓夫氏
※科学的社会主義の要の本『資本論』について
自由に質疑・討論をします

主催：社会科学研究会
(問合せ先)

メール：takuo-miwa@mable.ne.jp
電話：090-4899-5230 (駒沢)